

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 池永
日 時	平成27年11月11日(水曜日)	開 議	午後 1 時 30 分 閉 議 午後 2 時 55 分
出席委員	明田 馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松		
理事者 出席者			
事務局	鈴木係長、池永		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 -

## 会 議 の 概 要

### 1 開 議

#### < 明田委員長 >

事前に配付した運営委員会の議事録について意見は。

#### < 酒井委員 >

3点ある。運営委員会のあり方はこれで良いのか。26年度の議事録に運営委員会以外に2つ会議体を作られたことが書かれているが、中身がどうか。議論のベースに根拠がない。ニーズの把握の必要性や、救急車の受入率など、再三聞かれても答えがなかった。これからの委員会の着眼点として、平成20年に同席されていた監査法人トーマツから話を聞くのも1つではないか。

#### < 小松委員 >

25年度の会議に記者として同席していた。救急の質問については出されていたのではなかったか。細かい話なので載っていないのでは。26年の議論を見ると、運営委員会の役割等の共通認識ができているのか疑問に感じた。病院の思いと委員の思いがかけ離れている部分もあるのでは。

#### < 酒井委員 >

救急受動率は出したのなら掲載していただきたい。運営委員会は、20年は4回開催されているが、21年度は開催していない。22年度から26年度は年1回の開催だが、22年度から24年度については内容が薄い。25年度は医療管理監等について活発な議論がされているが、経営についてはあまり議論されていない。26年度は経営についても活発に議論が出ていたが、27年度は未開催。こんな状況でプランの策定をできるのか。またプランを作った後、点検・評価をしていないことが分かった。同じようなことにならないよう、せっかくの委員会を生かしていかなければならない。26年度の議事録では、諮問機関ではなくすと言われ、委員が不満を感じておられるようである。どうプランを策定していくのか疑問。26年度の議事録に経営戦略WGと経営改善委員会を新たに作ったことが書かれているが、議論の内容を確認すべきである。また、運営委員会の内容をホームページに公開するように求めていく必要があるのではないか。

#### < 馬場副委員長 >

病院が頑張っていると感じた点は、独立行政法人化の動きがある中、公営企業を守

っていく姿勢を明確に示していることである。私は公営企業を守っていく立場が必要だと考えているが、委員会として態度を明らかにする必要がある。また、どうやって医師を確保するのか委員会として検討する必要がある。評価すべきなのは、職員の人件費を下げない病院が多いのに、市立病院は人事院勧告に従って、病院を守っていくために下げている。職員をあげてやっている点は評価すべきである。運営委員会のあり方については、要綱設置なのか条例設置なのか、市長の諮問なのか管理者の諮問なのか、主体が分からない。どこに責任を負っているのか、機能が分からない。救急については、京都中部広域消防組合とやりとりをする中で、数字のとり方が微妙だから把握できていないのか、それともカウントしていないのか。受けるのは結局、南丹かシミズか市立病院である。市立病院も当直の体制により受けたくても受けられないこともある。総発生件数に対してどうであったのかということも必要。

< 明田委員長 >

議論されたことが正確に書かれていないなら問題である。

< 小松委員 >

救急受動率ではなく救急の受入件数であった。救急もしっかりやっているというニュアンスで話されていた。

< 明田委員長 >

運営委員会の公開についても、そもそも何によって運営委員会が存立しているのかをはっきりしないと位置づけが難しい。

< 酒井委員 >

運営委員会は現在、設置要綱に基づいて設置されている。市長の諮問機関であり、諮問に応じて答申すると書かれている。それを26年度の議事録では市長の諮問機関ではなくすと書かれている。そもそも現在も、自治法上、条例で設置すべき形態のものであると考える。それをなぜ条例でしないという議論になっているのか。条例化を求めるべきである。このような状態で設置されている審議会について、違法と判断されている裁判例もある。きちんとした運営がされるように言っていないといけない。また、議事録は上下水道事業経営審議会のように公開すべきと考えるがどうか。

< 小松委員 >

25年度は報道機関が出席し、記事にもした。公開すべきものとする。

< 明田委員長 >

どうしても病院が現状のままと言うのであれば、要綱の中に公開を入れていくということにしては。

< 馬場副委員長 >

運営委員会の設置の要綱なので議事録は関係ない。患者の状態など個人情報に関わる部分があると言われるかもしれないが、個人情報は当然伏せる。情報公開の基本と個人情報の保護を分けて、原則公開すべきと言ってはどうか。

< 明田委員長 >

言葉遣いにしても出す前に精査が必要であり、手間がかかるとは考える。公開を要望するということが良いか。

< 了 >

< 馬場副委員長 >

個人情報だけではなく、医療に関する専門的な内容が、高度な情報として差し障りがあるということもある。そこは確認が必要である。

< 明田委員長 >

その他にもいろいろあると考える。その部分は理解しながら、できるだけ公開していくように。個人情報に関わる部分はやむを得ない。

< 酒井委員 >

経営戦略WGと経営改善委員会の内容を委員会として把握する必要があると考えるがどうか。運営委員会の議事録からは、あまり経営のことが見えてこなかったので、公開できるかどうかは別として、委員会として内容を把握しておく方が良いのでは。

< 明田委員長 >

段階を踏んで、これらの会議について、どういう目的で何をされているのか資料をいただき、そして今日までの検討結果を公開してもらうことに繋げていけば良いのではないか。

< 馬場副委員長 >

決算の資料の中で、経営戦略WGなどの会議を実施したことが報告されていたか確認が必要。もし記載されていないようであれば、今後は決算で報告されるべきではないかということを入れてはどうか。

< 明田委員長 >

事務局調べられるか。

< 事務局 >

経営戦略WGについては、「職員の実務者による」とあるので、職員の打ち合わせ的なものとも考えられる。実態を病院に確認し、決算資料を確認することは可能である。

< 明田委員長 >

まず病院には、これらの会議の設立目的や活動内容が分かる大雑把な資料と、決算で活動報告がされていたかどうかを確認しては。

< 馬場副委員長 >

大上段で言った場合はそうであるが、職員の中でやっている可能性もある。どのような職場でも小グループで会議を行う。そのような形態を指しているのであれば、委員会に報告する中身でもない。実態が分かれば良い。

< 明田委員長 >

目的を把握して、知りたい項目を提示したら良いのでは。

< 酒井委員 >

経営戦略WGは職員ばかりで、費用が新たにかかっているわけではないと考えるが、長いスパンで話し合いをされているということなので、中身を見たい。経営改善委員会は学識者を迎えて精力的に開催しているとのことであり、経営に関することを突っ込んで話されているのであれば、その内容が見たい。目的はこの議事録から察しがつく。資料の要求をお願いしたい。

< 明田委員長 >

26年度に何回開催されているのか。

< 酒井委員 >

複数回開催されているはずである。危惧しているのは、会議体をたくさん作って結局中身がないことである。運営委員会や常任委員会で「他の会議体できちんと議論しています」と言われるが、ホームページに公開されておらず、なかなか会議録も出てこない。何をしているのか聞いても、報告する段階にないと報告がされない。そこも問題である。再三言われていることを受け止めていない。市民の医療ニーズ

の把握の必要性について、プランの策定段階から言われているのに、毎年アンケートは取れていないとの繰り返しである。救急受動率も調査していないのではないか。救急受動率を独自にとっている病院は4割であり、南丹病院もホームページで公開している。市民に必要な病院だということを示す意味でも、きちんとしていくべきである。他の会議体でもそういう数字がないまま議論しているのであれば厳しく指摘していく必要があるのではないか

< 明田委員長 >

今言われたようなことを全て病院に要求するには違和感がある。聞きたい内容をあらかじめ病院側に連絡しておき、行ってから聞いてはどうか。

< 馬場副委員長 >

一番肝心なのは医師の確保と、外来・入院をどう増やすかである。WGの議論がどうかではなく、市民アンケートが必要であるならば、執行部・議会がそれぞれの立場で、どうすればアンケートをすぐにできるような体制になるのかなどの意見のやりとりをすべきではないか。追及する中で良いものが出てくるなら良いが、いろいろな委員会の中身を教えると言うだけでは提案になっていない。こうすればできるというのを委員会で議論し、方向性を出すべきである。病院も、そのためにWGなどを作っているのである。WGなどについては、設置形態などの説明を簡単に受け、あとはどうすれば良いかということ話し合っていけば良いのではないか。

< 酒井委員 >

追及するためでなく提案するために中身を把握する必要がある。改革プランを作った時に、アンケートで院内・院外に対して患者のニーズの把握を行うと市立病院は総務省に言っているが、実施していない。どうやったらできるようになるかと言うが、やったら良いのではないか。

< 馬場副委員長 >

総務省が言っていることができていないからダメではなく、内容の吟味も必要である。

< 酒井委員 >

総務省の言うことに応えていないのではなく、市立病院が自らアンケートをとると言ったのにやっていない。20年度より前は実施していたが、計画期間中はやっていなかった。医療ニーズを把握しないことには経営戦略を立てられないので、アンケートをすべきである。政策医療を提供するから税金の投入に正当性が出てくるのであり、政策医療をどのくらいやっているかを説明できないといけない。救急車の受入率は、救急車の来院患者数を受入要請人数で割れば良いだけである。ぜひ把握すべきである。把握しないなら、何をもとに経営戦略を立てていくのか。

< 明田委員長 >

アンケートでも救急受動率でも、実施しなかった理由があると思う。あらかじめ疑問点を提出し、病院に行って院長や管理者や部長に確認していくことでどうか。

< 酒井委員 >

他の会議体では出しているかもしれないので、それを見た上で、足りないものがあるれば指摘していけば良い。公的医療機関としての役割を示すことも市民理解を得るために必要である。そのためにも医療指標をきちんと取るべきである。今まで常任委員会や運営委員会で言われたにもかかわらず対応されていないことについて説明を求めていくということではどうか。

< 富谷委員 >

様々な課題があり、課題提起をしたにもかかわらず答えがないのは思索中というこ

ともある。1つ1つ意味があるはずであり、それらについて管理者の思いを共有したい。27年度はまだ運営委員会を実施されていないが、WGは実施されているのか、議事録が出せるような状況なのか、具体的に1つ1つ聞いていきたい。

<小松委員>

病院の改善のためにもアンケートは取った方がよい。救急受動率は数字だけ聞いたら誤解を招くこともある。救急のたらい回しについてよく言われるが、本当に病院が大変で受け入れができない状態のこともある。市立病院は医師の数が手一杯の中、救急の受け入れもしている状況であり、救急受動率は低いかもしれない。聞くならば数字だけではなく、低いなら低いなりの理由をきちんと聞くべきである。

<馬場副委員長>

医師が疲弊したら医療が保障できないということもある。いずれにしても、委員会で出た意見は相手があって初めて議論できることなので、具体的に聞きたい内容を抽出し、お互いに思っていることを伝えていけば良いのではないかと。地元でよく聞く病院への交通手段の確保の視点も含めて提起したい。

<酒井委員>

医療指標は良ければそれで良いし、思わしくなければどうしてそうなのか、これから対策を立てていくための議論のもとである。説明を聞きながら丁寧に中身を見ていきたい。改革プランの点検評価のために、総務省の基準額通り、毎年50万円を繰入基準の中に入れていく。しかし50万円もかかった内容か疑問である。救急医療についても繰り入れをしているが、うまくいっていないならそれを改善し、繰り入れの説明ができるような役に立つ病院にしていきたい。市民福祉の向上に役立つ病院の方向性を出すため、リハビリを早期に開始した率など様々な指標を医療指標として出していくことも考えられる。根拠に基づいた立案ができるような状況を作っていくように委員会から提案したい。

<平本委員>

市民のための市立病院なので、アンケートを含め市民ニーズをつかむのは大前提である。黒字経営ができるにこしたことはないが、多少なりとも市民に負担をいただいで運営しているので、まさに正しく運営されているかを見るために運営委員会があると考える。しかし議事録を見ると、抽象的な表現で説明されており、何が問題でどう改善すべきかが出ていない。WG、経営改善委員会に大きく期待しており、その内容に興味がある。資料をいただくか話を聞くかは各委員の総意で良いが、手元にある運営委員会の資料だけでは病院の経営がどうなのかが分かりにくい。

<明田委員長>

出た意見の中から問うべきことを抽出し、病院に行き話を聞く機会を設けてはどうか。新院長に30分か1時間ほど時間をとってもらい、我々の思いをぶつける機会としては。

<酒井委員>

話を聞くのは良いが院長も忙しいので、まずは会議録をいただき、これまでの議論を見た上で、何を聞くべきかを持っていくべきでは。

<馬場副委員長>

逆の意見である。市立病院に行くと感じる点がたくさんある。1つはオーダリングシステムである。本日9時に予約したら、支払いが終わるまで20分で支払金額も安かった。また、困っている人がいたら看護師や職員がすぐに声をかけて誘導してくれる。民間でもやっているが、そういう面を見た上で、資料上の気になることは指摘してはどうか。まずは現場を見たら良いのではないかと。

< 平本委員 >

病院の経営責任者は誰なのか。病院の実務の話を書くなら院長だと思うが、話の内容によって、聞く相手を考える必要がある。

< 明田委員長 >

運営委員会のあり方などは新しい院長に確認しても良いのでは。あまり難しいことではなく、基本的なことを聞いてはどうか。病院の経営状態は当然勉強され、院長としての考え方をお持ちのはずである。前もって新しい院長の考え方をまとめた資料をいただき、それを読んで勉強してから行けばどうか。

< 酒井委員 >

現場を見に行くのも、院長に話を聞くのも良いが、時間を効果的に使うためにも事前に会議の中身が分かっていた方が良い。

< 富谷委員 >

前もって見ておいた方が、具体的に質問ができる。忙しい中、院長に時間をいただくので、質問の内容を前もって渡しておくことも1つである。

< 明田委員長 >

何を前もって見せていただくのか。WGや経営改善委員会は、院長とは関係なく以前からされていることである。

< 酒井委員 >

WGや経営改善委員会の中身を踏まえたうえで、院長に話を聞いた方が良いと考える。

< 明田委員長 >

事務局で調整してもらうので良いのでは。病院事業管理者によると、院長にお会いするのは長時間は無理だとのことである。30分か1時間くらいと考える。

< 小松委員 >

25年度に議論になった医療管理監について、院長に役割分担がうまく機能しているのかを聞きたい。

< 明田委員長 >

これは非常に複雑な中身を含んでいる。この問題はどちらかといえば解決しているのではないかと考えるが、確認しても良い。

< 酒井委員 >

市立病院に行って時間を作ってもらう目的は何か。目的を明確にしておけば、委員から聞きたい意見が色々出てくるのではないか。

< 明田委員長 >

今までの議論で出た内容を病院側に確認してはどうか。新院長に議会側の思いを伝え、院長の思いも確認し、様々な病院の課題については、管理者や部長、課長などから説明を受けてはどうか。現場をどうしても確認すべきだという意見があればそれを付け加えても良い。

< 富谷委員 >

普段から市立病院を利用し、電子カルテや親切な対応を目の当たりにしている。あえて現場に大勢で行く必要はないのでは。

< 馬場副委員長 >

現場というのは、施設を見るのもいいが、新しい院長なので、病院理念を自分としてどう受け止めておられるのかという意味である。全体の実情を見ながら、その中で院長がどういう展望を持っておられるのかを聞きたい。

< 富谷委員 >

院長に聞きに行くことは賛成である。

< 明田委員長 >

では、これまでに出了意見の項目を後で整理し、抽出したものを皆に確認いただき、病院側に提示することとしてはどうか。時間があれば当日、それ以外の内容を聞いても良い。30分から1時間院長に話を聞き、それ以外は管理者や部長に聞くということで、病院に行くことでどうか。日程はどうするか。病院側の都合もある。

< 事務局 >

12月2日、7日あたりでどうか。

< 馬場副委員長 >

午前中は診療されているので、午後でどうか。

< 明田委員長 >

12月2日、午後1時30分。1時市役所出発で調整してはどうか。

< 事務局 >

今の案で調整する。

< 明田委員長 >

交通手段の手配はできるのか。

< 事務局 >

車両室と調整する。

< 酒井委員 >

院長に話を聞きに行くより前に、会議録を出していただきたい。

< 明田委員長 >

そのように取り計らう。12月2日の件については、病院と調整し改めて連絡する。資料についても早期に届くように手配をする。

< 酒井委員 >

先方の都合が悪かった場合も委員会を開催しては。委員だけでできることをやっていってはどうか。

< 平本委員 >

開催しても良いが、集まって何を話すのかは想定しておく必要がある。

< 馬場副委員長 >

開催して良いのでは。

< 明田委員長 >

要望した資料が出ているはずなので、それについて議論するというところでどうか。

< 了 >

< 明田委員長 >

1月の月例は12日で良いか。

< 事務局 >

10月の委員会で第2火曜日に開催と決定しているので、1月は12日となる。

< 明田委員長 >

時間は何時からとするか。

< 事務局 >

10月の委員会では、議論が長引くことも想定し午後からにしてはという意見もあったが、この場で決定いただいたら良いと考える。

< 明田委員長 >

午後1時30分からでどうか。

< 了 >

< 酒井委員 >

話を聞きたい項目を抽出し委員で共有するとあったが、そのための日程を組むのは難しそうである。どのようにするのか。

< 明田委員長 >

正副委員長で項目を抽出し、皆にお渡しする。

散会 ~ 14 : 55